

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 4 7】
添付ファイル: 知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は… (週刊現代) _ 現代ビジネス _ 講談社 (3_3) .pdf; 知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は… (週刊現代) _ 現代ビジネス _ 講談社 (1_3) .pdf; 知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は… (週刊現代) _ 現代ビジネス _ 講談社 (2_3) .pdf; 高齢者・高リスク薬多用、薬切れパニック症状も_朝日新聞_2019年12月8日.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」** をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS 拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

0. Dr.中村哲 天国へ行く
1. NCNP 薬物依存研究部長の松本俊彦医師への意見について
2. 知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は… (週刊現代) _ 現代ビジネス _ 講談社 (**添付**)
3. 高齢者にリスク高い薬、80代処方ピーク 睡眠・抗不安 (朝日新聞 12/8) (**添付**)
4. ギャンブル依存症治療に保険適用へ

【記事】

0. Dr.中村哲 天国へ行く
アフガニスタンで NGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師 (73) が 12/4 日、殺害された。彼は、貧困のアフガニスタンで、水利事業や農業支援へと活動を広げ、砂漠化した土地に水を引くことに力を注いだ。Dr.中村の功績を称賛する。
彼はキリスト教徒として、「戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし」、アフガニスタンの「**照一隅**」を実践し、最後まで、「地の塩、世の光」であった。

1. NCNP 薬物依存研究部長の松本俊彦医師への意見について
当会は、ベンゾジアゼピン副作用の重大性を否定する公式見解を発表している NCNP 薬物依存研究部長の松本俊彦医師への解任要請及び非難を続けている。それに対する反対意見もあるので、以下のとおり、当会の公式見解を述べる。

『日本の唯一の薬物依存研究機関である国立精神・神経医療研究センター (NCNP) の薬物依存研究の責任者である松本医師が「ベンゾジアゼピンは薬物依存医ならず、医学的治療の対象ではない」としている以上、厚生労働省がベンゾジアゼピン副作用の治療研究や治療 GL を作成することはあり得ません。したがって、ベンゾジアゼピン薬害を認める＝松本の意見を潰す＝松本の退任・交替と考えています。各被害者は「自分の症状をなんとかして欲しい」と BYA へ言ってこられる方が多く、当会は治療機関ではないため、そのような助言はできません。できるのは、①ベンゾジアゼピン副作用を理解する医師を探すこ

と、②緩徐に（複数年）で減薬すること、③そもそも2-4週以上にベンゾジアゼピンを連用しないことくらいです。そして、厚生労働行政において「ベンゾジアゼピン規制の不作为」を改めさせ、ベンゾジアゼピン副作用の実態を把握し、対策を進めるように働きかけることです。』

2. 知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は…（週刊現代） _ 現代ビジネス _ 講談社（添付）

以下引用

『何種類もの薬を一度に飲めば、薬が体内に長く留まり、それぞれの薬の副作用がでやすくなることは知られていた。高齢社会のいま、この多剤併用、ポリファーマシーは社会問題化している。』

『以前から、不眠症で、デパス（エチゾラム）とハルシオン（トリアゾラム）という睡眠薬を、気分で使い分けていました。

ほかに飲んでいたのは、気管支炎の薬でクラリスというものです」昨年8月、遠藤さんは深夜にトイレに行こうとした際、転倒して階段から落ちた。泊まりに来ていた長男が物音に気付き、救急車を呼んで一命をとりとめたという。』

ベンゾジアゼピンは単剤でも副作用を多発するが、中には、ベンゾジアゼピンを複数種類に処方している事例がある。同じ鎮静効果のベンゾジアゼピンを多剤処方しても、原疾患を治癒する効果はなく、副作用の危険性が高くなるだけである。

3. 高齢者にリスク高い薬、80代処方ピーク 睡眠・抗不安（朝日新聞 12/8）（添付）

<https://www.asahi.com/articles/ASMCW5R1LMCWULZU00R.html>

すでに、12/8の会（BYA）【情報 Vol.144】の2項でお伝えした記事であるが、新聞紙上には「薬切れパニック症状も」という記事が第2面にある情報が提供されたので、新聞を複写して添付する。

以下引用

『高瀬さんは「ベンゾ系は依存性が強く、薬が切れると不安感に襲われパニックに陥りやすい。ときに『中毒』すら起こす薬だ」と指摘する。』

詳細は添付記事を参照。

4. ギャンブル依存症治療に保険適用へ

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20191211-OYT1T50352/>

以下引用

『厚生労働省は11日、カジノや競馬、パチンコといったギャンブルの依存症治療について、来年度から公的医療保険の対象とする方針を固めた。同日開かれた中央社会保険医療協議会（厚生労働相の諮問機関）での議論を受け、同省は、依存症患者に対する適切な医療体制の整備が急務と判断した』

ギャンブル依存症は治療に保険適用だとしながら、「ベンゾジアゼピン依存症は原疾患だ」として「医学的治療の対象ではない」（NCNP 松本俊彦）とされているのには、呆れ返る。どこまで日本の精神医療は杜撰なのか。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史

協議会の連絡先

愛知県及び東京都に連絡先を置く

愛知県（暫定仮）

柴田・羽賀法律事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35

ハイエスト久屋5F Tel : 052-953-6011

